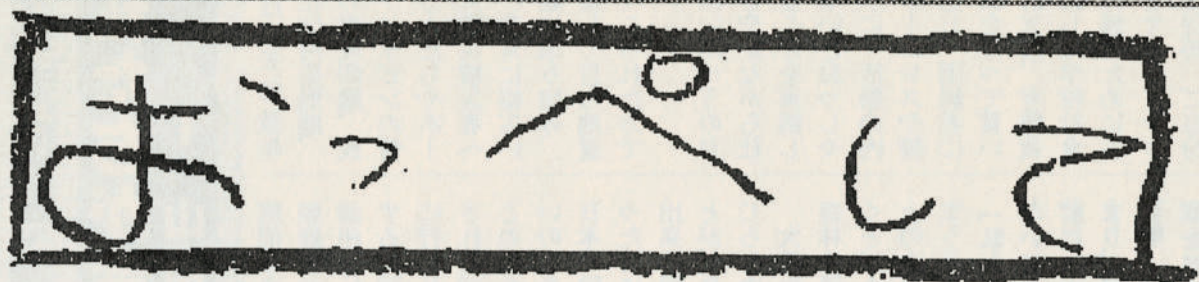


平成13年3月10日発行

事務局 飯能市商工観光課内  
☎ 73-2111 内線 159



平成12年度所沢地区消費生活地域講演会の報告

「買い物を変えよう、くらしと社会が変わる」

— 私たちが無理なくできること —

主催 飯能市、所沢市、狭山市、入間市、名栗村、県消費生活支援センター川越

2月7日(水)、小雨の降るあいにくの天候にもかかわらず会場である飯能市市民会館小ホールには、180名の方々が足を運ばれました。

京都からお招きした松本育生氏はNGO「環境市民」のチーフコーディネーター等、環境問題では幅広く活躍されている方です。

参加者とのやり取りを交えながらのお話は、楽しい授業を受けているようでした。

私たちがすぐに実行できる提案も含まれており大変為になると思われますので、お話しの内容を簡単に紹介させていただきます。

21世紀の環境で非常に恐いことの一つは化学物質による汚染であり、他の一つは私たち人間の生存基盤が失われつつあるという問題、即ち空気の汚染と水・食物の絶対的な不足です。

いずれも自然現象によるものではなく人間の活動がもたらしたものです。

ここ10年『異常気象』という言葉をよく耳にしますが、調査によると過去600

年間で最も暑い年の上位3位が最近の10年間に集中しています。

アラスカのデコボコ道路(温暖化によって、凍土が溶け出したことによる)、イギリスと中国の夫洪水、朝鮮の大干ばつ、アメリカのハリケーン等、世界各地で起きている異常気象による被害状況の写真をスライドで見せて頂きました。

これ等は地球温暖化の被害のほんの一部に過ぎません。

今地球上では、一年間に日本の全田畑に相当する面積が砂漠化しています。

災害、食糧不足、水不足・・・その時に最も危ない国の一つが日本です。

何しろ食料自給率が4割しかないのですから。

もはや、環境問題は「私には関係ない」と思っている人にも当てはまる関係性が出てくる問題になっていきます。

ある新聞社が行った世論調査で「21世紀の最も大きな課題は？」という質問に対する答えの第1位は「環境問題」だったそうです。

日本人とドイツ人とは環境に関

する知識や関心に殆ど差はありません。

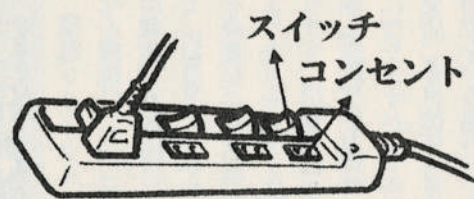
何に差があるのか？行動においてです。

関心が高いのに実際の行動となると「私一人が努力しても」と思っている人が多く、「環境によい生活をするには辛抱をしなければならぬ。」というイメージを9割以上の方が持っています。

これでも「辛抱しないで実行できること」として松本氏が提起されたのが以下の方法です。

【電気の使用量を無理なく減らす方法】

① 省エネタップを使う  
省エネタップには、コンセント差込み口にスイッチが付いているので指一本で電源から切ることができ、待機電力(使用電力中に占める割合は



14〜15%)を節約することが出来ます。

② 電化製品を買う時には消費電力の少ない商品を選ぶ

同容量の省エネ型の冷蔵庫とそうでない普通の冷蔵庫を、同条件下で使用した場合、電気代は1年間で1万円もの差が付くそうです。

平均10年間という使用期間を考えると省エネタイプが断然お得ということになります。

消費者が省エネタイプを買えば、企業はより省エネの商品を目指して開発を進めるとい

うことにもつながります。

皆さん、電化製品は省エネタイプを買いましょう！

【ゴミを減らす方法】

結論としては、「必要量のみを買う」という買い方が一番です。

重さでゴミの4割を占める生ゴミですが、これは食べ残しや、手も付けないまままで捨てられる食材が沢山あるからです。

世界には8億人もの飢えている人がいるというのに、日本中の家庭、スーパー、コンビニ、レストラン等で棄てられている食べ物や合わせて一日に何と3000万人分もの食料を棄てていることになるのだそうです。

そこで「必要量のみを買う」ということが大切になります。

私たちが「健康」、「子供たちに渡す環境」、「本質的な生活の豊かさ」をもっと大切にして買い物をする(「グリーンコンシューマーになる」)ことで、この社会を変えていくことができるのです。

・・・という内容のお話し

飯能市民の皆さん、買い物という投票で、社会を変えていくことはありませんか？

私たちが「健康」、「子供たちに渡す環境」、「本質的な生活の豊かさ」をもっと大切にして買い物をする(「グリーンコンシューマーになる」)ことで、この社会を変えていくことができるのです。

飯能市民の皆さん、買い物という投票で、社会を変えていくことはありませんか？

私たちが「健康」、「子供たちに渡す環境」、「本質的な生活の豊かさ」をもっと大切にして買い物をする(「グリーンコンシューマーになる」)ことで、この社会を変えていくことができるのです。

飯能市民の皆さん、買い物という投票で、社会を変えていくことはありませんか？

# 飯能市消団連講演会

## 「私たちが今出来ることは？」

### 山田征さんのお話し

山田征さんは過去20数年の間、食物の化学汚染問題、森林保護などの環境問題、或いは北朝鮮、フィリピンの貧困に喘いでいる人たちがホームレス、阪神大震災被災者への生計支援等、非常に幅広い分野の社会問題に取り組み、その改善を目指して自ら地道な活動を続けてこられた方です。

『肩書きの無いふつうのおばさん』がささやかながら社会に還元できることを実践してきたに過ぎないとおっしゃられているように、活動の内容容そのものはホームレスや被災者への炊き出し、困窮者に編物や手工芸品を作って貰い、買い上げる生計支援、有機栽培食材を中心とした学校給食の普及、森林保護のために古雑誌を主原料とするトイレツトペーパーの販促等、ご自分で出来る精一杯の範囲のどちらかといえば地味で目立たないものの積み重ねです。

飯能市消団連は、山田さんのこのような「ほのかな一灯が社会の一隅を照らす」生き方に学ぶべき物が多々あるのではないかと、11月25日(土)に飯能市市民会館に山田さんをお招きし、『私たちが今出来ることは？』についての助言を得られるよう講演会を開催しました。山田さんは北朝鮮との国境に近い中国(旧満州)に北朝鮮の人たちに対する何回か経済支援活動に行かれて、前々日にご帰国されたばかりでしたが、何故この人たちはこんなにも貧しいのかを考え、そして遠因は日本の国にもあったのだと知った時に、例えささやかでも出来る限りの支援を続けることとがご自分の使命であると感じられたそうです。

- ① 大量生産、大量消費による森林の消滅が現在の状況で続くこと、あと20〜30年で地球上の主だった森林が消えてしまうそうですが、山田さんは「私たちはこの掛け替えのない緑の全てを喰いつぶす前に一度しっかりと立ち止まり、自分のあり方、生きる姿勢、物や物事に対する価値観を見直し改めなければなりません。もう少し不便でも、もう少し貧しくても、少しでもう少しシンプルなくらしでも良いのではないのでしょうか」とおっしゃられました。
- ② 紙、紙製品を使い過ぎない。森林資源は有限です。
- ③ トイレツトペーパーは無漂白再生紙のものを。漂白剤が河川を汚染しています。
- ④ 割り箸を使うのを止める。間伐材、端材から作られている割り箸は1割もありません。
- ⑤ ショッピングは自分の買い物袋で。スーパーのプラスチックの袋は環境を汚染します。
- ⑥ 洗剤には合成洗剤を使わない。河川、湖、海の環境を破壊します。
- ⑦ 必須最低限のものしか買わない。全ての商品は空気汚染と温暖化の元凶です。

**山田征さんご推奨のトイレツトペーパーの購入をご希望の方は下記へお申し込み下さい。**

〒195-0064 東京都町田市小野路町1733  
 湯舟共働学舎  
 ☎ 0427-37-7676  
 Fax 0427-34-6688

ロール巻トイレツトペーパー  
 90m/ロール 芯なし  
 1ケース 50ロール入り  
 配送料込み ¥2,100/ケース  
 (振込手数料はご負担下さい。)

① 湯舟共働学舎は身体障害者の授産施設です。  
 ② 漂白剤(発ガン性物質あり)やソフト剤(河川を化学汚染する)を一切使用していないため市販品程真っ白でもソフトでもありませんが、使うには十分な品質です。

# あるエネルギーを使用し

て作られています。お話しを伺い私たちは、山田さんのように目の前にある物事や問題をまじめに感じ、考え、答えを出して、少しでも社会を改善する為に実際の行動に移しておられる、そしてその行動の一つ一つは誰にでも出来るように見えることではあるけれど、その一つ一つをきちんとやり遂げられ、しかも何十年も続けられているということは、本当に偉大なことであると痛感しました。

私たちに出来ることは比較にならない程少ないのですが、山田さんご推奨のトイレツトペーパーを使い、デザインや値段の安さにそそられて洋服の衝動買いをしつたりせず、スーパーの袋は貰わない、そして努めて石鹸を使用する・・・せめてこの程度のこととは実践して行こうと思えました。

# 家電リサイクル法が始まります!

家電リサイクル法の対象となる機種は、エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の4種類だけで、消費者がこれらの家電製品を廃棄処分する時には表①のようになりリサイクル料金が掛かります。消費者はこの際に、収集・運搬料金を併せて払うことになり、各自治体(自治体が独自売店、各自自治体)がそれぞれ回収を行う場合とそれぞれ決めることになっていきますので、表②のように店や自治体ごとに異なることとなります。

【表①】 リサイクル料金の例

家電大手7社	
テレビ	2700円
冷蔵庫	4600円
洗濯機	2400円
エアコン	3500円

【表②】 収集・運搬料金の例

	収集・運搬料金の例			
	札幌市	広島市	小売店A社例	小売店B社例
テレビ	1800円	3000円	3910円	3000円
冷蔵庫	1800円	3000円	3910円	3700円
洗濯機	900円	3000円	3420円	2000円
エアコン	700円	3000円	3910円	3200円

消費者は自分が廃棄した家電製品の行方を確かめることができなくなっています。小売店は引取った家電製品をメーカー(製造業者)の指定引取り場所へ運搬します。飯能市最寄りの指定引取り場所は所沢市および川越市にあります。そこから、各メーカーがリサイクル工場へ運びリサイクルします。廃棄はリサイクル工場での分解され新しい製品の部品や、原材料や燃料として再利用されます。

消費者に取って家電の廃棄は、殆どの場合、買換え時に起こる問題ですが、引越その他買換えではなく単に不要になつて廃棄する場合の引取りについては、自治体に相談することになっていきます。しかし4月実施を目前に、各自治体の対応は「4家電の収集・運搬料金を発表している所」、「収集しない」、「未定」とまちまちです。飯能市ではどうなっているのか、クリーンセンターに問い合わせたところ、「4家電については収集しない」とのことでした。従って、小売店に引取り義務のない製品については、飯能市が許可している一般廃棄物処理業者に依頼することになります。

以上が廃家電リサイクルの具体的な仕組みと流れですが、問題はいろいろありそうです。まず、引取り義務のある小売店ですが、自分たちの儲けにはならない料金をお客から徴収しなければならぬという負担ばかりが大きい仕組みです。量販店が収集・運搬料を割安にサービスしたら、普通の小売店は太刀打ちできないでしょう。また中古品を修理し、販売している中古リサイクル業者の場合、今までは持込まれる中古家電の中で修理の利かないものは金属のみを回収し、残りは無料の粗大ゴミとして処分してきましたが、今後はリサイクル料、収集・運搬料を負担せねばならなくなつたため、引取りを中止した所もあるそうです。これでは、中古品を修理して再利用するという折角できている小さなリサイクルの輪をつぶすことになってしまいます。

そして何より心配なのが不法投棄です。今でも悪質な不法投棄が大問題となつていますが、家電リサイクル法がこの不法投棄に拍車を掛けることにならないか本心に心配です。

これらの問題を根本的に解決するにはリサイクル費用をあらかじめ製品に上乗せする『前払い方式』にして、リサイクルの製造者責任を明確にすることにします。メーカーが製品廃棄時の処理費用を考へて素材、設計、製造を行わざるを得ないような法律を作つてこそ、リサイクルは進みます。

私たち消費者は、家電リサイクル法にのつとつて、リサイクル料金を払うことは当然ですが、国に対してリサイクルの製造者責任を明確にした法律を作るよう求めていきたいと思います。